

研究専攻（専門領域）		日本・アジア研究専攻 (日本近現代文学)		学籍番号	07CS009
氏名	三枝 エリカ	ローマ字	SAEGUSA Erika	国籍 (留学生)	
修士学位論文名	「金銭小説」としての夏目漱石作品				
提出年月日	2009年1月13日		指導教員	小川 敏栄	
体裁 (論文)	89頁(1頁文字数1200字)		言語	日本語	
別冊添付資料等					
キーワード	夏目漱石 金銭 明治文学				
<p>明治文学を代表する国民的作家、夏目漱石の作品世界には、〈恋愛〉とともに〈金銭〉の問題が頻繁に登場する。このことに着目して読むことで、漱石文学における〈金銭〉の意味を探り、「金銭小説」としての読み方を提示したい。</p> <p>先行研究における〈金銭〉の考察は、個々の小説を扱った作品論としての狭い範囲に留まるものが多い。本稿では、文学史に沿いながら、漱石作品の全体を見渡し、そこにさまざまな形で現れる、〈金銭〉と〈恋愛〉を中心とした人間関係の問題を考察する。</p> <p>近世文学や漱石以前の明治文学において、〈金銭〉と〈恋愛〉の問題を作品世界の中心に据えているものは少ない。このことは、一つには〈恋愛〉の歴史性や、扱われる女性像が漱石の作品の時代に至るまでに変化したということが関係している。また、漱石以前の作品では、〈金銭〉が登場するにしても周到な伏線が用意されるわけではない。漱石のように、〈金銭〉について様々な伏線を張り、綿密に計算された構成力で小説世界を展開させてゆく作家はほとんど見られないのである。小説世界において〈金銭〉と〈恋愛〉の関係をリアルな問題として開拓した人物は漱石であるといえる。</p> <p>〈恋愛〉を中心とした〈金銭〉の問題が登場人物たちの性格や思想、作品展開に深く関わっているという点が漱石作品の特徴であるが、〈金銭〉そのものが何度も読者の前に提示されるという点も忘れてはならない。これらは、漱石ならではの創作方法であり、そのゆえに彼の作品は「金銭小説」という言葉で表わすことが出来るのである。</p> <p>漱石の作品世界における〈金銭〉には、〈恋愛〉に関係する働きや、作品世界の出来事に何らかの影響をもたらす、重要な道具としての働きが見られるとともに、登場人物造形の核としての重要な使命も与えられている。〈金銭〉に対する考え方を基準に登場人物を善人と悪人に分類するという、初期作品の単純な人物造形は次第に、一人の人間の精神面に大きな影響を及ぼし、その人間を変えてしまいさえするものが〈金銭〉であるというような、複雑な捉え方へと変化していく。</p> <p>このように〈金銭〉にこだわりぬいた作家、夏目漱石だからこそ、完成させることが出来た小説が、「金銭小説」なのである。〈金銭〉に重要な役割を与えて、作品世界や人物造形をより複雑でリアリティーのあるものとして設定し得た作家は、夏目漱石以外に存在しない。彼が描く〈金銭〉の問題は、決して片付くことのないものとして、時代を超えて人々を悩ませているのである。</p>					